

2021/12/6

(うときゅういっきの「これから」同調圧力 恥1)

演繹法のように全部のストーリーができあがった上で書く書き方ではないので「行きつ、戻りつ」の帰納法のような書き方になってしまいます。申し訳ございません。

なので、本日は本題に入る前に昨日書き忘れた内容を少しばかり先に述べさせて戴きます。度々申し訳ございません。

では、その書き忘れとは何かと申しますと

「我々日本人の行動原則とはスケートや体操の規定演技の様なものなのではないか？」

と申すことで御座います。

つまり、減点をいかに少なくするか？という発想法。100点満点からいかに失点を食い止めるか？例えば一見加点に見える総合得点 98.7 は、実は裏を返せば減点又は失点 1.3 と言うことで、我々は 98.7 の加点に見えるものより減点又は失点 1.3 の方を気にしながら生きていくと言うことを述べ忘れたので御座います。

では、いよいよ本題。

前回記事の終わりの方で「赤面の恐怖」と書きましたが、それはどういうことなのかについて今少し詳しく述べさせて戴きたいと思えます。詰まり赤面のメカニズムについてです。

在る外国人が

「日本人は皆対人恐怖症なのか？話しかけようとして近づいただけで目をそらして落ち着きを失い、逃げ腰になる。なんでなんだ？」

と尋ねてきました。

それで思ったのですが、我々は山道など誰も居ないところで外国人に会ったりすると言葉の問題など何処へとやら。

お節介と思えるほどあれもこれもと世話を焼くのに、確かに街中だと「仰せの通り」の態度を取る。

「何故だろう？」

それで思ったのは、外国人を前にしたとき、目の前の外国人より背後から厳しいチェックを入れている我々同朋の視線が気になってそのような振る舞いになるのではないかと考えました。

では何故そのようなことが起きるのか？

そこで又考えたのが

「日頃自分がそうした目で他人を見ているものだから、他人も恐らくそのような目で見ているに違いない、と勝手に思い込んで居るところがかなりあるのではなからうか？」

と言う仮説でした。

度々の所作とはなりますが、是を又裏返せば

「自分がそういったチェック視線、スパイ視線で見ることを止めれば、或いは止められれば案外気楽に外国人と、それこそ対人恐怖症などと言われない堂々とした態度で会話が出来

るのではないか」

という事になります。無論仮説ですが。

もしそれが叶わない場合、次のような心象が発生するような気がします。

即ち

「(古において完成された)「特段の美学」を自分が達成できないなら、むしろ或いは次善の策として人の目を患わさぬよう、雰囲気を壊し汚さぬようにお行儀良くして何もしないで居るのが正解 (スタンダード)」

となり、上述の「達成」「スタンダード」そのいずれも出来ないのは

「恥ずべき事」

で

それが即ち

「美学の対極である恥」

ということになって居るのではないのか？

と推測しておる次第で御座います。